

市民運動 理論面から支え

川辺川ダム、ハンセン病……。熊本に関わる社会問題の解決を目指す市民らを支え、理論面から支えた。

熊本県立大になる前の熊本女子大へ1977年に赴任し、2012年の定年退職まで35年間務めた。専門は農村計画学。農業政策や巨大な公共事業に翻弄される農村へ、学生らとフィールドワークに通った。

その中で関わるようになったのが、ダムの水を利用する国営川辺川土地改良事業だった。1996年に事業に反対する農家約800人が農水相を相手に起こした川辺川利水訴訟では、弁護団長の故板井優さんを支えた。農家に対する地道な聞き取りを重ね、ダム以外の利水の在り方を模索。2003年に福岡高裁で逆転勝訴を勝ち取った。

板井さんの長男で弁護士の後介さん(47)は「農家自らが地域の将来を決める道筋を示し、国の事業を止めるきっかけをつくった」と評価。ダム反対運動を長年ともにした市民団体代表の中島康さん(83)は「感情に走りがちな市民運動を理論的に引き締め、彼の言うことには地元の住民や政治家も一目置いていた。筋が通らないことは徹底的に追及する厳格さもあつた」と振り返った。

ハンセン病では、国立療養所菊池恵楓園について市民意識を調査。東京電力福島第1原発事故後は、九州電力川内原発差し止め訴訟の熊本原告団共同代表も務めた。20年の熊本豪雨を受け、いったん白紙撤回された川辺川でのダム計画が動き出した後は、幅広いデータの分析や地元の声に基づいた理論を示した。

社会問題に幅広く関わり続けながら、後進の育成にも動いていたさなかの急逝だった。市民運動ではよく、「常識だと思っ

なかじま きはちろう
熊本県立大名誉教授 中島 熙八郎さん
2月4日死去 77歳



「7・4 球磨川水系大水害を考える県民集会」で話す中島熙八郎さん＝2020年11月、熊本市国際交流会館(小野宏明)

2024. 2. 29 熊日